

第3回 佐久市文化振興推進企画委員会 会議次第

平成29年10月19日（木）

午後1時30分～

佐久市役所7階 701会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 会議事項

(1) 平成30年度以降の文化振興基金活用事業について

ア 文化振興基金活用事業内容打合せ会議 報告

イ 文化振興事業について

ウ 佐久平交流センターのピアノについて

(2) 連絡事項

ア 次回の日程について

イ その他

6 閉 会

平成30年度の文化振興基金活用事業の事業内容事前打ち合わせ会議 報告書

日時：平成29年9月29日（金曜日）午後1時30分～

場所：佐久市佐久平交流センター第2会議室

参集者：

（一財）佐久市文化事業団 企画等検討委員会 委員長 奥村達夫・委員 廣末恵子

佐久市文化振興推進企画委員会 副委員長 原いづみ・委員 和光智恵子

（一財）佐久市文化事業団 事務局長 玉置和・業務／地域振興係長 市川賀朗

教育委員会事務局社会教育部 文化振興課長 小林義夫

文化振興係長 土屋信・文化振興係 西澤涼花

1 打ち合わせ会議の目的の確認

- ・佐久市文化振興基金（運用益）を活用し開催した事業に対する説明責任を果たすため、企画方針を明確にする。
- ・単年度ではなく、複数年度のプログラムを決めていく。
- ・「文化振興事業実績と計画」の表に、対象とする年齢層なども加えて、さらに方針を明確化していく。

2 （一財）佐久市文化事業団と佐久市教育委員会の、文化振興事業の対応を統一する。

- ・例えば、広報の方法を統一する。チケットの市民先行販売や、年齢区分を統一する。招待者を統一するなど
- ・事務局レベルで協議し統一を図っていく。

3 佐久市文化振興基金の活用先のソフト事業に対する解釈

- ・佐久市文化振興基金はソフト事業に活用していく。
- ・文化振興事業実施に必要な広報や施設備品の購入はソフトに含まれないのか。
- ・ソフト事業の実施に必要なものは、必要な根拠を明確にして、要望する。

4 平成30年度以降のソフト事業（佐久市文化振興基金活用）

- ・エストニア国立男性合唱団
- ・ウィーン・サロン・オーケストラ または ウィーン・リング・アンサンブル
（2019年のニューイヤークンサートとして）
- ・レ・フレール
- ・宝くじ公演などで、伝統芸能やその他の公演があれば検討

文化振興事業 実績と計画

プロモーション型	ジャンル	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(案)	
鑑賞型	演劇・ミュージカル		劇団四季 (ファミリーミュージカル)	劇団四季 (ファミリーミュージカル) (小・中学生芸術鑑賞会)	劇団四季 (ファミリーミュージカル) (小学6年生芸術鑑賞会) ・風間杜夫ひとり芝居 (コスモホール事業)	劇団四季 (ファミリーミュージカル) (小学6年生芸術鑑賞会)	劇団四季	
	クラシック音楽・オペラ		ウィーン・クワイター・アンサンブル (コスモホール事業)	イ・ムジチ合奏団 コンサート	読響コンサート		○	
	バレエ					牧阿佐美バレエ団公演		
	伝統芸能・芸能	NHK公開番組 「おんパト+」 (コスモホール事業)	柳家さん喬&喬太郎 落語親子会	NHK公開番組 「民謡魂 ふるさとの唄」 (コスモホール共催事業)	年忘れ落語会 春風亭小朝独演会 歌声喫茶ともしび in 佐久 (コスモホール事業)	柳家小三治・三三 落語親子会		
	舞踊・舞踏 ダンス						○	
	ポピュラー 音楽	南こうせつ with ウー・ファン (コスモホール事業)		コンサート&ドラマ (コスモホール事業)		ザ・ゲレン・ミラー オーケストラ コンサート (コスモホール事業)		
	その他 ファミリーコンサート 講演会等	米村でんじろう サイエンスショー (コスモホール事業)		オーケストラで聴くジブリ音楽 (コスモホール事業)		ランチタイム コンサート (コスモホール共催事業)		
	鑑賞型企画 事業	信州パリ祭2013 (コスモホール事業)				児童・青少年のための 舞台芸術フェスティバル 〈キッズ・サーキット in SAKU〉	児童・青少年のための 舞台芸術フェスティバル 〈キッズ・サーキット in SAKU〉	児童・青少年のための 舞台芸術フェスティバル 〈キッズ・サーキット in 佐久〉
		第2回大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	第3回大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	第4回大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	第5回大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	第6回大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	大きな輪となれ ジョイントコンサート (コスモホール共催事業)	
		(未充当→)	佐久室内オーケストラ 原博道追悼コンサート TEDx SAKU コスモフェスタ2013秋 信州佐久太鼓の共演	佐久室内オーケストラ 原博道追悼コンサート TEDx SAKU コスモフェスタ2014 信州佐久太鼓の共演	コスモフェスタ2015 信州佐久太鼓の共演	コスモフェスタ2016 信州佐久太鼓の共演	コスモフェスタ2017 信州佐久太鼓の共演	コスモフェスタ 信州佐久太鼓の共演
体験参加型		心が豊かになる 音楽への招待・全4回 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	心が豊かになる 音楽への招待・全4回 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	心が豊かになる 音楽への招待・全4回 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	心が豊かになる 音楽への招待・全4回 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	心が豊かになる 音楽への招待 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	心が豊かになる 音楽への招待 (アウトリーチ) (コスモホール事業)	
			PAS 全12回 (ワークショップ・講演会等) (コスモホール事業)	PAS 全15回 (ワークショップ・講演会等) (コスモホール事業)	PAS 全10回 (ワークショップ・講演会等) (コスモホール事業)	PAS・コスモ☆アカデミア公演 (ワークショップ・講演会等) (コスモホール事業)	PAS・コスモ☆アカデミア公演 (ワークショップ・講演会等) (コスモホール事業)	
	(未充当→)	第13回佐久第九演奏会 こころのミュージカル2013	第14回佐久第九演奏会 こころのミュージカル2014	第15回佐久第九演奏会 こころのミュージカル2015	第16回佐久第九演奏会 こころのミュージカル2016	第17回佐久第九演奏会 こころのミュージカル2017	佐久第九演奏会 こころのミュージカル	
支援型			芸術文化活動 事業補助金	芸術文化活動 事業補助金	芸術文化活動 事業補助金	芸術文化活動 事業補助金	芸術文化活動 事業補助金	
			アーティストバンク (経費 指定管理料に含む)	アーティストバンク (経費 指定管理料に含む)	アーティストバンク (経費 指定管理料に含む)	アーティストバンク (経費 指定管理料に含む)	アーティストバンク (経費 指定管理料に含む)	

※ 鑑賞型、体験参加型、支援型とタイプの異なった文化振興へのアプローチにそれぞれ基金を活用している。

※ 鑑賞型では、ジャンルが偏らないよう配慮してる。中心の

※ の事業は、一般財源と入場料・協賛金等で開催している。(文化振興基金未充当)

※ PAS=パフォーミング・アーツ・スタジオの略称

文化振興事業計画 鑑賞型 (案) 【平成30年度スケジュール】

		H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3
80歳以上	シニア				↑	↑	↑				↑		↑
60~70代							④ エストニア男声合唱団(クラシックコンサート)						
40~50代													
20~30代	ミドル					③ OMF(スクリーンコンサート)					⑦ ウィーン・アンサンブル or ⑧ ウィーン・サロンオーケストラ (クラシックコンサート)		
10代	大学生 高校生				① レ・フレール (現代音楽)								⑨ 劇団四季 ファミリーミュージカル (ミュージカル)
	中学生									⑥ 中学生映画鑑賞会			
10歳以下	小学生												
	幼児				② キッズ・サーキット in 佐久 (舞台芸術フェスティバル)								
		PAS / 通年 (10回程度)											
		心が豊かになる音楽への招待・ランチタイムコンサート / 通年 (12回程度)											
		佐久市芸術文化活動事業補助金 事業 / 通年 (予算200万)											

文化振興事業 検討資料 ①

平成29年10月

公演名または内容		出演：Les Frères（レ・フレール） 演目：ニューアルバム「Piano Infinity（ピアノ インフィニティ）」発売記念ライブ 概要：1台のピアノを2人で弾く連弾スタイルで、オリジナル曲を演奏
開催期日または時期 （理由等）		2018年7月14日（土） （ニューアルバム記念ライブ・ツアーファイナルとなる？）
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 その他（音楽コンサート）
対象年齢 （理由等）		全年齢（出演者側は制限していない。リズム感あふれる音楽で全年齢で楽しめる。）
公演料		約400万円（経費込み）
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		3,000円前後 （A席2,000円～6,000円）
評価	活動地域	主に日本 フランス・ベルギー・韓国でメジャーデビュー ヨーロッパ各国・韓国・オーストラリアの主要都市などでツアーを開催
	人気または知名度	・ツイッターフォロワー数2,375 ・2017年10月開催「Piano Infinity」横須賀公演 チケット完売（会場：Younger Than Yesterday・収容人数130名～400名）
	経歴	・2002年9月、出身地横須賀のライブハウスで「レ・フレール」として活動開始。 ・2006年11月発売のメジャーデビュー作『PIANO BREAKER（ピアノ・ブレイカー）』はオリコンウィークリーチャートでピアノストデビュー作歴代最高位のTOP20入り、ゴールドディスクを獲得。 ・2016年9月にメジャーデビュー10周年記念アルバム『レ・フレール THE BEST』を発売。 ・2017年9月発売のアルバム『Piano Infinity』は、サウンドスキャン クラシックチャートで週間売上1位を獲得。 ・オリジナル曲の制作とライブを軸に活動を続ける。
	芸術性	
開催効果		・音楽コンサートだが、新しいジャンルの公演 ・クラシックではないので気軽に楽しむことができる。 ・10～20歳代の集客に期待
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ②

平成29年10月

公演名または内容		<p>児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル 〈キッズ・サーキット in 佐久〉 出演団体：総合P兼芸術総監督と実行委員会が決定した団体 (18団体) 概要：市内に点在する中小の公共ホールに劇団等を招へい し、3日間にわたり20以上の公演を開催</p>
開催期日または時期 (理由等)		2018年8月上旬(夏休みに合わせて開催)
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型(体験参加型も合わせて企画) 演劇等(人形劇・ミュージカル・音楽・サーカス)
対象年齢 (ターゲット層・理由等)		全年齢(幼児から小学生がいる家族)
公演料		1,300万円以上
チケットの料金設定(予定) (参考：他の場所での料金)		パスポート2,000円(各種割引あり) (1公演で1,000~3,000円)
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・出演団体は日本各地から招へい(海外からも) ・演劇フェスティバルは、日本各地で開催されている。 ・本フェスティバルは、市内全域を会場としている。
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年延べ入場者数4,879人 ・2017年延べ入場者数5,612人
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年8月、第1回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in SAKU〉 ・2017年8月、第2回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in SAKU〉 ・2018年8月に第3回を計画中。地域振興や子ども達が主体的に創作活動に取り組むプログラムを加えるなど一部のリニューアルも検討。(一財)地域創造の助成事業等の財源確保にも努めている。
	芸術性	
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・点在する中小の公共ホールの活用、集客の拡大につながる。 ・児童・青少年のためのフェスティバルとし、子どもたち主体の創作活動につなげる。 ・人材育成や未来の街づくり人づくりとなる。
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ③

平成29年10月

公演名または内容	セイジ・オザワ 松本フェスティバル スクリーンコンサート 出演：サイトウ・キネン・オーケストラ 他 指揮：小澤征爾 [小澤征爾以外の指揮の可能性 有] (未定) 演目：未定 概要：開催地である松本市以外の会場においてオーケストラコンサートの模様を生中継または録画中継する。(映像・音響等は業者が設営)	
開催期日または時期 (理由等)	2018年8月下旬から9月上旬 OMFの開催時期がその期間にあるため	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 その他 (スクリーンコンサート)	
対象年齢 (理由等)	高校生～シニア	
公演料等	舞台設営費等約200万円 (共催市負担金は1/3)	
チケットの料金設定 (予定) (参考：他の場所での料金)	無料 (本公演はC席 2,000円～SS席 25,000円[公演内容による])	
評価	活動地域	松本市及び、長野県内の公共施設等 (年度ごと巡回) また、長野県外で数カ所 (H29年/東京都・熊本 他3カ所)
	人気または知名度	・ 県内ニュースで毎年取り上げられている。 ・ 小澤征爾は世界的に有名な指揮者・音楽監督である。
	経歴	・ 1992年より毎年松本で「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」が開催。2015年より「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」として始動。 ・ スクリーンコンサートは「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」の頃より、松本市の公共施設で開催。 ・ 2013年より長野県が仲介役となり、県内外の公共施設でスクリーンコンサートを開催する。 ・ 昨年の観客数は OMF (約8万人) ・スクリーンコンサート (上田市/駒ヶ根市 計1160人)
	芸術性	
開催効果	・ 著名なコンサートを地域の施設において無料で鑑賞できる機会となる。 ・ 本コンサートに行かない方・行くことができない方の集客が期待される。	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ④

平成29年10月

公演名または内容	出演：エストニア国立男声合唱団 指揮：ミック・ウレオヤ 演奏曲：（未定） 概要：合唱が盛んな北欧・バルト三国から、エストニア国立男声合唱団が初来日。男性50人によるハーモニー	
開催期日または時期 （理由等）	2018年9月（パーヴォ・ヤルヴィ指揮によるNHK交響楽団定期演奏会に客演が決定し初来日決定）	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 クラシック音楽（～現代音楽）	
対象年齢 （理由等）	小学生以上か？	
公演料	約4,000千円	
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）	3,000円（予定） （不明）	
評価	活動地域	エストニアをはじめドイツ、フランス等ヨーロッパ各国、ロシア、アルメニア、ジョージア等旧ソ連諸国、北米やアジアツアーを定期的開催
	人気または知名度	
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1944年、指揮者・作曲家のグスタフ・アーネサクスが設立 ・2004年にパーヴォ・ヤルヴィ指揮によるCD「シベリウスのカンタータ」により、米グラミー賞合唱部門最優秀賞を受賞 ・2015年、エストニア国立文化勲章を受賞 ・2016年、サンクトペテルブルク、アルメニア、ジョージアに招かれて公演開催 ・エストニア共和国出身のN響首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィが「クレヴォ交響曲」での共演を希望し2018年9月に来日が決定した。 ・エストニア国营放送のために多くレコーディングを行うほか、各国でCDをリリースしている。 ・初期は無伴奏作品を主なレパートリーとしていたが、現在は交響作品を演奏している。
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久市と友好都市であるサク市があるエストニア共和国と交流を図ることができる。 ・エストニア文化に理解を深める。（ホストタウン交流事業等の一環として） 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑤

平成29年10月

公演名または内容		小学6年生芸術鑑賞会（劇団四季こころの劇場） 出演：劇団四季 演目：（未定） 概要：「劇団四季ファミリーミュージカル」を市内の小学6年生に鑑賞してもらう。
開催期日または時期 （理由等）		2018年11月上旬（平日）（全国を巡回している劇団四季と学校のスケジュールを調整のうえ決定）
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル		鑑賞型 演劇（ミュージカル）
対象年齢 （ターゲット層・理由等）		小学生（佐久市では小学6年生を対象として平成26年度から開催している。）
公演料		公演料無料（経費150万円程度）
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		無料 （企業からの寄付金により運営されている。）
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、東京・北海道・名古屋・大阪にある専用劇場を中心に、その他の大都市でも開催している。 ・全国ツアーも行っている。
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・人気・知名度とも非常に高い。 ・ファミリーミュージカル佐久公演過去3年間はチケット完売
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1953年、日下武史、浅利慶太、吉井澄雄ら10名で結成 ・1954年、第1回公演『アルデール又は聖女』などアヌイやジロドゥ作品を中心に上演 ・1955年、『野生の女』（ジャン・アヌイ）が大入りで新聞批評に取り上げられる。 ・1964年、日生名作劇場“こどものためのミュージカル・プレイ”がスタート。第1回『はだかの王様』（寺山修司脚本） ・1975年、『エクウス』上演、文化庁芸術祭大賞受賞 ・1983年、東京に「キャッツ・シアター」を建設『キャッツ』上演 ・1984年、『キャッツ』日本演劇史上初の1年間のロングランを達成し閉幕 ・1993年、日本にミュージカルを定着させた功績で菊池寛賞受賞 ・1998年、大町市に「四季演劇資料センター」を開設 ・2005年、小学校5・6年生向けの四季俳優による出張授業「美しい日本語の話し方教室」を開始 ・2008年、児童招待事業「こころの劇場」スタート、40万人を超える児童・生徒を招待 ・著名な作品多数『キャッツ』『オペラ座の怪人』『ライオンキング』『ユタと不思議な仲間たち』他 ・全国で1年間に約3,000回の公演を開催し、約300万人の観客を動員した実績がある。
	芸術性	
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・観劇後の感想でも評価が高く小学生でも楽しめる劇団四季の公演で、すべての児童にホールでの観劇を体験してもらうことができる。
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑥

平成29年10月

公演名または内容	うさぎ追いし 山極勝三郎物語 概要：市内の中学校で映画を上映、中学生が無料で鑑賞 内容：大正時代の初期に世界で初めて人工癌の発生実験を成功させ、ノーベル医学生理学賞候補にもなった山極勝三郎の生涯を描いた人間ドラマ
開催期日または時期 (理由等)	2019年(各中学校の年間行事計画に位置付ける。中学校とスケジュールを調整し学校ごとに実施)
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 その他(映画)
対象年齢 (理由等)	中学生(佐久市内の8中学校で実施し、中学生に鑑賞してもらう)
上映料	1,200千円(経費込)
チケットの料金設定(予定) (参考：他の場所での料金)	(学校で上映) (上田市内の中学で実施)
評価	<p>学校での鑑賞目的</p> <p>山極勝三郎は、ほぼ同時代の医学者・野口英世と比較するとポピュラーとは言えない人物である。しかし、彼の成し遂げた業績は、野口英世のそれに決して引けを取るものではなく、むしろ世界の医学界では評価が高くすらある。</p> <p>癌がまだ稀な病気であった時代に、世界で初めて人工癌を作った山極勝三郎は、発癌研究、広くは癌研究のパイオニアとされている。</p> <p>世界的に癌の死亡者は全死亡者の約13%を占め、我が国では1981年から死因のトップであり、近年2人に1人が癌にかかると言われ患者は90万人を超えと言われている。</p> <p>中学校では、癌そのものの理解や癌患者に対する正しい認識を深めるための癌教育の必要性が言われている。</p> <p>最後まで諦めない意志とぶれない信念、そして粘り強い実行力をもった山極勝三郎が、どのようにして人工癌を作ることに成功したのか。そしてそれはどのような人生から生まれたのか。この映画を観ることで生徒に学びとってもらいたい。</p>
開催効果	<p>医学史上偉大な足跡を残した山極勝三郎は、上田市出身の病理学者であるが、これまで教育現場で教えてこなかったことから知名度は低い。学校での事前学習やこの映画を観ることで、いかに信州人の誇りであるか知ることができ、不撓不屈の精神とやると決めたら最後まで成し遂げる大切さを学ぶことができる。</p>
文化振興推進企画委員会の評価	

文化振興事業 検討資料 ⑦

平成29年10月

公演名または内容		出演：ウィーン・リング・アンサンブル 演奏曲：（ワルツ・ポルカ） 概要：ウィーンフィルハーモニー管弦楽団で45年間コンマスを務めたライナー・キュッヒル、看板奏者として活躍したペーター・シュミードルに、現団員を合わせた9名のアンサンブル（ヴァイオリン2人、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、ホルン、クラリネット）
開催期日または時期 （理由等）		2019年1月（ウィーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサート終了後、毎年来日している）
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 クラシック音楽
対象年齢 （理由等）		小学生以上（静かに鑑賞できる年齢）
公演料		650万円（経費込）
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		（C席3,000円～S席9,000円）
評価	活動地域	・ウィーンフィルハーモニー管弦楽団は、世界各国で公演を行っている。
	人気または知名度	・ウィーンフィルハーモニー管弦楽団は、最も著名なオーケストラの一つで、日本でもニューイヤーコンサートが中継される。 ・ウィーン・リング・アンサンブルのニューイヤーコンサート日本公演は27回を数え、知名度は上がっている。
	経歴	・1992～2016年まで、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の首席コンサートマスターを務めたライナー・キュッヒルが1985年に結成 ・1998年、長野オリンピック文化・芸術祭参加公演に選ばれ、2回の演奏会を開催 ・1999年以降、ウィーン楽友協会の年末のコンサート・シリーズで、毎年公演を開催 ・2002年夏、ルツェルン・フェスティバルに招待 ・CDのリリース多数、1991年の初来日以降、27回の来日公演を続けている。
	芸術性	
開催効果		ウィーンで活動する9人音楽家が、オーストリアの作曲家たちによるワルツ、ポルカを演奏する。一流のアンサンブルで、ウィーンの音楽の一端を鑑賞することができる。
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑧

平成29年10月

公演名または内容	出演：ウィーン・サロン・オーケストラ (Salonorchester Alt Wien) 演奏曲：(ワルツ・ポルカ) 概要：オーケストラ23名、バレエダンサー1組(男女各1名)、オペラ歌手2名(男女各1名)の27名編成(2017年)、ウィーンのを伝統を継承しつつ聴衆が求めるミュージカル、映画音楽、ダンス音楽、民族音楽などのプログラムに柔軟に対応したコンサート	
開催期日または時期 (理由等)	2019年1月(ニューイヤーコンサートで訪日)	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 クラシック音楽	
対象年齢 (理由等)	小学生以上(静かに鑑賞できる年齢)	
公演料	6,480千円	
チケットの料金設定(予定) (参考：他の場所での料金)	3,000千円 (B席4,000円～S席6,000円)	
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン各地でコンサートを開催 ・2004年、中国、カリフォルニア・ロング・ビーチで公演
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・2001、2002、2004、2006年に日本ツアー ・2014年から毎年ニューイヤーコンサートで訪日
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1994年、ウド・ツヴェルファーのもとウィーン・フォルクスオーパー交響楽団のメンバーにより結成。「世界中からウィーンを訪れる人々に本物のウィーン音楽を」 ・1998年以降、ウィーン楽友協会ホール、ホーフブルク宮殿ホール、国立図書館ホール、ウィーン証券取引所祝祭ホールなどウィーン各地で年間300回を超えるコンサートを開催 ・2001年、ウィーン・クアサロンを拠点に活動 ・2001年からたびたび訪日公演
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽家が、ウィーン音楽を本場の雰囲気の中で演奏する一方、ダンサーや歌手も交えて多岐にわたる楽しいプログラムを鑑賞することができる。 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑨

平成29年10月

公演名または内容		劇団四季ファミリーミュージカル 出演：劇団四季 演目：（未定） 概要：劇団四季が「ファミリーミュージカル」とした作品を、1年間をかけて全国巡回公演
開催期日または時期 （理由等）		2019年3月下旬（春休みに合わせて設定・全国巡回公演のツアーファイナルが長野県内の公演となる。）
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル		鑑賞型 演劇（ミュージカル）
対象年齢 （ターゲット層・理由等）		3歳以上入場可（ファミリーで楽しめる演目を上演するが、中学・高校生以上の女性に好まれると思われる。）
公演料		4,752千円程度
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		4,000円程度（劇団四季の意向により県内同額） （4,000円程度）
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、東京・北海道・名古屋・大阪にある専用劇場を中心に、その他の大都市でも開催している。 ・全国ツアーも行っている。
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・人気・知名度とも非常に高い。 ・佐久公演過去3年間はチケット完売
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1953年、日下武史、浅利慶太、吉井澄雄ら10名で結成 ・1954年、第1回公演『アルデール又は聖女』などアヌイやジロドウ作品を中心に上演 ・1955年、『野生の女』（ジャン・アヌイ）が大入りで新聞批評に取り上げられる。 ・1964年、日生名作劇場“こどものためのミュージカル・プレイ”がスタート。第1回『はだかの王様』（寺山修司脚本） ・1975年、『エクウス』上演、文化庁芸術祭大賞受賞 ・1983年、東京に「キャッツ・シアター」を建設『キャッツ』上演 ・1984年、『キャッツ』日本演劇史上初の1年間のロングランを達成し閉幕 ・1993年、日本にミュージカルを定着させた功績で菊池寛賞受賞 ・1998年、大町市に「四季演劇資料センター」を開設 ・2005年、小学校5・6年生向けの四季俳優による出張授業「美しい日本語の話し方教室」を開始 ・2008年、児童招待事業「こころの劇場」スタート、40万人を超える児童・生徒を招待 ・著名な作品多数『キャッツ』『オペラ座の怪人』『ライオンキング』『ユタと不思議な仲間たち』他 ・全国で1年間に約3,000回の公演を開催し、約300万人の観客を動員した実績がある。
芸術性		
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・有名な劇団であるので多くの住民の興味を引く。初めての観劇でも楽しむことができる。 ・人気は高く、観劇後の感想でも評価が高い。継続開催で、住民要望に応えることができる。
文化振興推進企画委員会の評価		

佐久平交流センターグランドピアノについて

1 提案

- (1) 佐久平交流センターのピアノ（製品名：Shigeru kawai SK-6 グランドピアノ）の買い替えを行う。
- (2) 平成 30 年度に文化振興基金を活用して実施する。

2 ピアノの買い替えが必要な理由

- (1) ホールとピアノのマッチングが良好はでない。
 - ア 佐久平交流センターホールのピアノは、ホールの大きさに適合していない。ホールに響かせる音が出ていない。（音が響いていないと感じる。）
 - イ コンサートの利用に適合していない。奏でたい音を出す品質を備えていないという演奏者がいる。
 - ウ 佐久平交流センターは利用頻度が高いホールで、もっとも使用頻度が高い楽器であるピアノを買い替えることは、ホールの利用者（演奏者及び観客）に利益になると判断した。
- (2) ピアノの状態が良好ではない。
 - ア 平成 29 年 2 月、ある利用者が佐久平交流センターホールを借用し音楽の発表会を開催した。発表会前に調律をしたが、発表会中に音が狂ったとの指摘を受けた。急遽、別の調律師により調律をしたところ弦が 1 本切れた。
 - イ 平成 29 年 3 月、ピアノ保守点検業者から、ピアノに関し「弦の老朽化や響板の隙間がある」との報告があった。これについては修繕（オーバーホール）を行った。
 - ウ ピアノのオーバーホールに否定的な見解を持つ演奏家もいる。

3 文化振興基金の活用について

- (1) 佐久平交流センターは平成 28 年まで、経済部の所管で勤労者福祉に資する目的で管理されていたが、本年度から教育委員会に所管替えされ、文化施設として管理されることとなった。（貸館としてだけでなく指定管理者による文化事業も実施する。）
- (2) 佐久平交流センターは、立地条件がよいため利用頻度が高い。ホールはコンサートなどの開催も多く、多くのコンサートでピアノは必要な楽器である。文化施設として、現在のピアノより一般的に高い評価を受けているピアノを購入する。ピアノを変更することで、コンサートの質に多くの良い影響があり、住民（演奏者及び観客）に利益となる。
- (3) ピアノのグレードから、買い替える必要があると判断している。今後、平成 30 年度に買い替えのための予算要求をしていく。緊急かつ特別な措置として、文化振興基金をあてる。

No.	団体名	代表者	団体構成	活動目的	事業名称	開催期間	開催場所	事業目的	見込んでいる効果	参加者見込み	交付決定額
			23人	活動をするため、また、展示会の開催により市民の方々との交流を図るため。		平成29年8月16日		元成を高めると共に、故郷での展示会を通じ、町の方々とも交流することを目的とする。	築などの分野で活躍の元となるセンスを養う。	500人	

No.	団体名	代表者	団体構成	活動目的	事業名称	開催期間	開催場所	事業目的	見込んでいる効果	参加者見込み	交付決定額	
8	佐久駒場翰墨会	会長 荻原 信子	17人	・東洋の優れた芸術である水墨画の良さを理解し、広く普及に努める。 ・水墨画の伝統表現技法を正しく継承し、次世代に引き継ぐ ・現代における新しい水墨画の可能性を探る	第22回 佐久駒場翰墨会 水墨画作品展	平成29年9月21日 ～ 平成29年9月25日	佐久創造館	・東洋の優れた芸術である水墨画を学び、制作した会員の作品を発表し、会員の切磋琢磨ヲ図り、技術の向上を求める。 ・伝統的水墨画を鑑賞者に正しく伝え、芸術文化の振興に努める。	・現代において衰退化の傾向にある伝統的水墨画芸術を、多くの方々に見ていただくことでその魅力を再発見してもらい、特に若い世代にアピールする。	出演者・スタッフ	55,000 円	
			(内佐久市在住)							18人		入場者
			7人							400人		
9	華重会作品展実行委員会	代表 北澤 馨	50人	書道を楽しみ、会員の技術向上と書道文化の振興を図る。	華重会作品展	平成29年9月30日 ～ 平成29年10月2日	佐久平交流センター	伝統ある書道文化をより発展させる。	観た人に書道への興味と関心を誘い、書道文化振興を図ると共に、会員の技術向上が図られる。	出演者・スタッフ	100,000 円	
			(内佐久市在住)							75人		入場者
			48人							500人		
10	佐久市民写生会	会長 甘利 信次郎	35人	佐久地域の美術復興と、会員相互の親睦を図り、地方文化の向上に寄与することを目的とし、次の事業を行なう。【写生会・勉強会の開催・春愁の研修写生会・佐久市民写生会展等の開催・各展覧会への参加・美術館等の鑑賞】	第52回 佐久市民写生会展	平成29年10月6日 ～ 平成29年10月9日	野沢会館	佐久地域の芸術文化の視野が広がり、地域住民が心豊かな潤いある社会の実現を目指して、芸術文化の向上を願う。	絵画展を鑑賞してもらうことにより、美術に関心をもってもらう。	出演者・スタッフ	41,000 円	
			(内佐久市在住)							64人		入場者
			21人							300人		
11	プレアデス芸術文化振興団	代表 駒村 重美	7人	生演奏を通じて少年少女の感性の覚醒を促す機会を数多く提供し、協力して美しいものをつくりあげ、共感する喜びを大切にしようことを目的とする。	鍵盤ハーモニカと過ごす楽しいひととき	平成29年10月7日	市民創練センター	・生演奏を通じて、少年少女の感性の覚醒を促す機会を提供する。 ・美しいものに共感する喜びを体感し、大切に生きていけるようにする。	・少年少女が生演奏に感動し、感性・共感を大切に生きていけるようにする。 ・美しいものに共感する喜びを支えとして逆境をも乗り越えていくことができる。	出演者・スタッフ	50,000 円	
			(内佐久市在住)							9人		入場者
			7人							300人		
12	コスモスターズ・ジャズオーケストラ	バンドマスター 井出 直弘	19人	佐久に初心者からベテランまで誰でも参加できるビッグバンド形態のジャズバンドを作りたいという思いから発足。小学生から高齢者まで、演奏経験や技術レベルも様々なメンバーで構成。希望者はだれでも入団でき、演奏を楽しめるバンドを目指す。年一回、地域の皆さまに練習の成果を披露し、ビッグバンド・ジャズを好きになっていただきたいと願い、週1回の練習を通年行なう。	コスモスターズ・ジャズオーケストラ 第14回定期演奏会	平成29年11月18日	交流文化館浅科	1年間の練習の成果の発表	メンバーの演奏力向上を目指すと同時に、観客の皆さまにビッグバンド演奏の醍醐味を感じていただき、メンバーの増強につながることを目指す。	出演者・スタッフ	59,000 円	
			(内佐久市在住)							29人		入場者
			9人							250人		

937,000 円